

	研修会名	対象	評価（○成果 ●課題）
1	社会体験（職業体験）研修	104名	<p>○ 参加者の81%（平成17年度：79%、平成16年度：77%）が「研修を通して企業（施設）の現場を知ることが有効である」と答え、参加者の83%（平成17年度88%、平成16年度：85%）が「研修の体験を活かしたい」と答えている。</p> <p>○参加者の研修態度について、すべての事業所が「積極的に参加していた」と答え、研修参加者が前向きに取り組んでいたことを認めていた。研修態度がよくなかったという報告はなかった。</p> <p>●事前指導の徹底と課題の明確化</p>
2	校長研修会	市内小中学校長 22名	<p>○ 実践報告及びグループ協議を中心にした研修を通して21世紀プランの具現化を図る方策を共有化することができた。</p> <p>○ 中学校ブロック別の協議会で、小中学校における教育課題の共有化、次年度の小中連携の推進に向けた準備を図ることができた。</p> <p>● 各学校の課題解決の方策を検討する場の設定</p>
3	教頭研修会	市内小中学校教頭 22名	<p>○ 市教委が設定した課題に応じた実践報告及びグループ協議を通して21世紀プランの具現化を図る校務運営の方策を共有化することができた。</p> <p>○ 中学校ブロック別の協議会で、小中学校における教育課題の共有化を図ることができた。</p> <p>○ 区教頭会の研修テーマと関連させた研修を実施することができた。</p> <p>● 小中学校別の研修の成果を評価する場の設定</p>
4	教務主任研修会	小15名 中7名	<p>○ 「大変役に立った」が6名、「役に立った」が13名であった。また、別添1の「研修のまとめ」を見ると、「方策評価から、子どもの育ちに視点を当てた目標評価への改善の大切さがわかった」「教師と保護者の評価をできるだけ同じ視点でみることの大切さがわかった」等の記述が見られた。このことから、2学期における教育課程の実施状況を評価し、3学期以降の改善を図ろうとする意欲を高めることは、おおむねできたと考える。</p> <p>● 教務主任として2学期の重点目標を適切に評価・分析した上で、3学期以降に、働きかける対象、時期、方法、評価等を明記し、教育課程の改善・充実に努めている学校は依然として少ない。これは、学校の重点目標の根拠となる実態の分析や方策の具体化が依然として進んでいないことが考えられる。</p> <p>【次年度への改善点】</p> <p>□ 開催時期が9月半ばであり、教務主任が出張しにくい状況にある。今回の表題であれば8月下旬に行う必要がある。</p> <p>□ 3年間内容が形骸化しているという指摘がある。改善点として、以下の方策を考えている。①重点目標の具現化に向けて、教務主任が研修、教育活動、環境等の場にどう働きかけ教育課程の改善・充実に努めているかという実践発表を設ける。②授業研究に教務主任がどうかかわり、教育課程に位置づけているかという協議会を設ける。③教務主任や一般教諭が必要としている「教科別めあて作成マニュアル」や「基底カリキュラム」等の表現物を作成する。</p>

	研修会名	対象	評価（○成果 ●課題）
5	研究発表の日	参加406名	
6	学年主任等研修会		<p>○ 「研修のまとめ」を分析すると、講話・講義の評価は、「大変参考になった」が10.7%、「参考になった」が79.1%であった。また、協議の内容は、「大変参考になった」が25.4%、「参考になった」が71.6%であった。このことから、学年等をまとめる者としての経営参画意識及び指導力の向上を図るという当初の目的については、おおむね達成できたと考える。</p> <p>● 「学年経営構想」に見られるように、学年主任として校長の重点目標を受けた具体的な目標と方策を立て、1学期の目標達成状況の評価を行い、2学期への改善策を計画している学校は6校程度にとどまり、多くが方策の実施状況の評価に終始している。これは、学校の重点目標の具体化が図られていないことも考えられるが、学年主任等として児童生徒の実態分析を行わずに単に方策を掲げていることが背景にあると考えられる。</p> <p>【次年度への改善点】</p> <p>□ 校長研修会にて学年経営案のモデルを提示し、目標と方策の記載の仕方の一般化を図る。</p> <p>□ 次年度の研修会では、講義と4つの分科会（小学校低・中・高学年、中学校）における実践発表を行い、組織マネジメントの考え方の徹底を図る。</p>
7	特別支援教育コーディネーター研修会	市内小中学校特別支援コーディネーター22名	<p>○ 東部・中部・北西部各ブロックからのケース報告を行うことで特別支援体制の確立や保幼・小・中連携などコーディネーターとしての校内での役割を自覚するとともに、具体的な対応策等の認識を深めることができた。</p> <p>● コーディネーターの経験年数の違いから初歩的な研修への希望と専門的な研修を望む希望が出ている。</p>
8	特殊学級担当者研		<p>○ 中学校ブロック単位での協議を行うことで、担当者として小学校から中学校へ児童生徒の情報をつなぐ必要性を認識させることができたとともに、授業研究を行うことで授業における児童生徒の実態に即した教師の細やかな支援の充実を認識させることができた。</p> <p>● 日々の授業づくりにおける内容が薄いことが懸念される。今後は内容構成一覧表の作成等を演習として取り入れ、授業研究につなげていくようにする。</p>
9	英語活動・外国語教育担当者研修会	市内小中学校特別支援学級担当者22名	<p>○ 第2回に行った公開授業(河東小)においてHRTが主体となり行う英語活動のあり方を研修することができた。「参考になった」以上の感想が100%であった。</p> <p>● ALTの活用方法には学校間の較差がある。研修会の中で演習を行っての指導案作成等、より英語活動の授業づくりについて研修を深める必要がある。</p>

	研修会名	対象	評価（○成果 ●課題）								
10	学力向上支援教員研修会	25名	<p>○ 本研修会の感想は、「大変役に立った」が、21名(84%)、「役に立った」が4名(16%)であった。また、「分けるときの根拠を明確にする大切さがわかった」「流れ図がわかりやすかった」「算数科の板書の構造化がわかった」「見通し、めあて、交流、まとめの過程を意識したい」などの記述が見られた。このことから、習熟度別少人数指導の進め方や授業づくりの留意点等の理解を深めさせることができたと考える。</p> <p>● 「指導案の分析結果」から、学力向上支援教員が単独で学習指導を実施している学校は9校である。小学校の半数は依然としてTTの形態をとっている場合が多い。少人数指導の展開が進まない要因としては、経験の浅い講師が学習指導力を十分に身に付けておらず、T2としての役割が多いためと推測する。</p> <p>【次年度への改善点】</p> <p>□ 次年度は、分割の根拠を明確にした少人数指導の形態をとるよう、授業者に依頼するとともに、5校時に授業を行うことにより、協議の時間を確保し、他校との情報交換が十分に行えるようにする。</p> <p>□ 学力向上支援教員の学習指導力向上に係る研修を設ける必要がある。</p>								
11	小学生校の先生のための楽しい英語活動づくり講座	3年間で小学校全教員 H18：69名	<p>○ 参加者へのアンケートの結果によると研修内容に満足するとともに、小学校における英語活動の意義及び担任の役割を認識し、当初の研修の目的を達成することができた。</p> <p>● 本市が考える英語活動について理解をする場の設定</p> <div data-bbox="805 1160 1286 1406" style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>たいへんよかった</td> <td>0.753623188</td> </tr> <tr> <td>よかった</td> <td>0.246376812</td> </tr> <tr> <td>あまりよくなかった</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table> </div>	評価	割合	たいへんよかった	0.753623188	よかった	0.246376812	あまりよくなかった	0.0
評価	割合										
たいへんよかった	0.753623188										
よかった	0.246376812										
あまりよくなかった	0.0										

	研修会名	対象	評価（○成果 ●課題）
12	教育講演会	参加者406名、欠席82名	<p>○ 当日の感想は、4段階評価で「とてもよかった」が73.6%、「よかった」が25.6%であった。また、別添2の「研修のまとめ」を見ると、「宗像市の重点目標の具体的方策がわかった」「生き方の根幹にかかわるすばらしいお話でした」等の記述が見られた。このことから、宗像市教育21世紀プラン2006の推進に係わる宗像市教育課題調査研究員の発表及び講演により、指導方法の理解や学力保障に対する使命感の涵養に資するという目的は達成できたと考える。</p> <p>● 一部の感想から、「前半の実践発表と後半の講演の関係が見えにくいので、市の教育施策を十分に説明したのちに、発表と講演の位置づけを明らかにしてはどうか」という提案を受けた。</p> <p>【次年度への改善点】</p> <p>□ 教育講演会での実践発表者の事前指導を前年度までに終えておくこと、当日は宗像市の重点施策を説明した後に実践発表と講演を行い、講演会の意味を対象者に十分理解させることを改善したい。また、次年度の候補者については、市内の教職員が元気が出る人、生きがいをもって人生を送っている人、教師を励ますことができる人などの観点から選出したい。</p>
13	図書館教育担当者研修会	市内小中学校図書館教育担当者及び学校図書司書42名	<p>○ 本年度より実施の「学校図書館を使った調べるコンクール」を中心に講話や実践発表等の研修を行うことで、担当者が授業に関わる方法について認識を深めると共に、情報交換により自校の取組を改善していこうとする実践力を高めることができた。</p> <p>● 各校内での連携に較差が生じている。特に担当者の自覚を促す必要がある。</p>
14	人権同和教育担当者研修会	市内小中学校担当者27名	<p>○ ブロックの研修の実施報告を協議のものと報告書作成・発表という手順で研修を進めることで、校内での人権・同和教育推進を見通しをもって進める必要性を認識させ、各ブロックでの連携を充実させることができた。</p> <p>● 担当者の意識の較差の解消</p>
15	生徒指導担当者研修会	市小中学校生徒指導担当者22名	<p>○ CAPプログラムの研修、いじめの早期発見及び防止に関する研修、中学校ブロック別に気になる児童生徒の情報交換を実施することができ、生徒指導担当者の資質向上に努めることができた。</p> <p>○ 中学校ブロック別の研修では、中学校教員が生徒指導に関して小学校へ情報を提供し、小中学校の課題の共有化、生徒指導への共通理解を図ることができた。</p> <p>● 担当者としての意識の格差の解消</p> <p>● 校区の課題に応じた研修テーマの設定</p>
16	教育課題調査研修会	小2名 中2名	<p>○ 今年度は、福津市との共催で開催し、宗像地区教育実践研究の表彰式と兼ねた宗像市教育課題調査研究員・福津市教育研究所員合同研究発表会を行うことにより、研究員と所員相互の教育実践に対する成果を共有することができたとともに、自らの実践的指導力の向上を図ることができた。</p> <p>● 指導教員による個別指導が中心であったため、研究員・所員相互の研究推進における情報交換や研究構想立案の際の視点の共有化が図りにくかった。</p> <p>【次年度の改善点】</p> <p>上記の課題を解決するために、指導主事が指導員を兼ねるのではなく、長研経験者等を指導担当者とし、グループ別協議を常時行うようにする。</p>

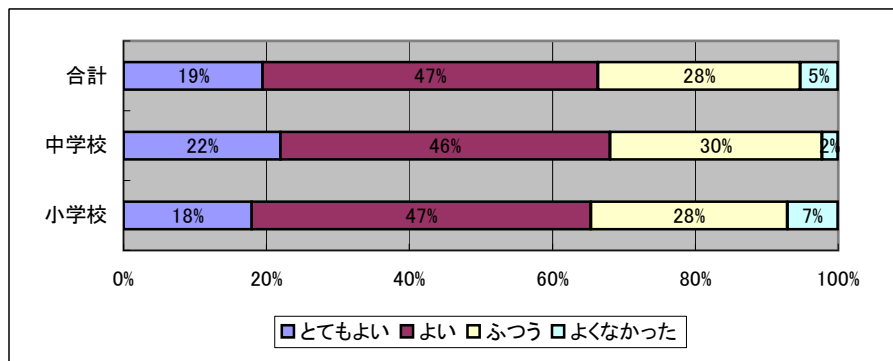
	研修会名	対象	評価（○成果 ●課題）
17	市教委訪問	小中学校 11校	<p>○ 1学期の重点目標の達成状況の評価と2学期の改善策に焦点化した訪問形態に変えたことにより、重点目標との関連で教育活動の改善充実を図るための視点をもたせることができた。</p> <p>● 総花的な重点目標になっており、目標をしぼり込み、めざす姿を焦点化、明確化できていない状況、週案提出や教室訪問が形式的になっている状況、学校経営推進構想が具体化できず、校内研修や日常の授業改善においてリーダー性を発揮できない状況、時数管理にとどまり、行事等の連絡調整に終始し、内容の指導ができていない状況、指導方法工夫改善推進計画の不十分さや、総合的な学習の時間の計画や内容の不十分さが目立つ状況、学年のお世話係という意識が強く、目標達成に向けた意図的、計画的、実践的な学年会の運営ができていない状況、目指す学習像のイメージがもてず、必然性に乏しいめあての提示による学習指導が依然として見られる。</p> <p>【次年度の改善策】 評価規準を明確にした評価票を作成し、教育委員による第三者評価を行い、自校の問題点と改善策をより明確にもたせるようにする。</p>
18	「学校の日」	全小・中 学校	<p>○ 毎月10日を「学校の日」とし、教育活動を定期的に公開し、保護者や地域の方々から意見を聴取する機会を設けることにより、月平均約1000人の保護者や地域の方々の参観者を得ることができた。特に、今年度は道徳・学級活動の指導案や授業参観ガイドを作成し、参観の視点を設けた学校が多く見られるようになり、学校教育に対する保護者や地域の方々の理解や協力を得るとともに、信頼を高めることにつながった。</p> <p>● 学校の日を保護者・地域の交流の場や参観の視点を設け、評価機能をもたせる学校の較差が見られる。</p> <p>【次年度の改善点】重点目標に基づく教育活動の改善充実のため、学校の日を生かした事例を校長研修会等で積極的に紹介し、啓発に努める。</p>
19	学校教育研究協議会	小・中学校 校長・教 頭会代表 者10名	<p>○ 平成19年度以降の小中一貫教育の推進、平成19年度宗像市教育21世紀プラン2007、平成19年度宗像市研修事業計画書における期日、宗像市教育委員会主催研修会等と福岡教育大学との連携構想、週指導計画（週案）の自校化など、教育施策方針の具体化に向けた説明・協議を年5回行うことにより、今後の教育施策に役立てることができた。</p>

	研修会名	対象	評価（○成果 ●課題）
20	小中一貫教育推進モデル事業	日の里中学校区・大島中学校区	<p>1 教育課程の編成について</p> <p>① 総合的な学習の時間</p> <p>○ 1. 2学期に3校合同研修会の場で総合的な学習の時間の目標・内容領域を作成するとともに、「ふるさと」「英語活動」「セレクト」「マイドリーム」の1学期分の単元指導計画を作成した。3学期は「英語活動」の単元指導計画の見直しと教具づくり、「ふるさと」の学校間の共通単元と選択単元を明らかにしている。</p> <p>● 残りの単元指導計画の作成。</p> <p>② 教科・領域</p> <p>○ 1. 2学期に3校合同教科等部会の場で、小・中の教科等における基礎的・基本的な知識・技能の確認を行った。3学期は、各学年の単元指導計画における評価規準や手だてに係る見直しと、各学年で確実に身に付ける基礎的・基本的な知識・技能を明らかにしている。</p> <p>● 各教科の基礎的・基本的な知識・技能に係る目標・内容の系統表の作成。</p> <p>2 指導体制（小学校高学年からの一部教科担任制等）</p> <p>○ 中期を中心に兼務教員の授業や学年間の交換授業による一部教科担任制を実施した。</p> <p>● 次年度は、教科担任制を実施して行われる教科選定の根拠を明らかにするとともに、教科担当者の移動等が容易に行われる週時制の検討を行う予定</p> <p>3 指導方法の工夫</p> <p>○ 小・中学校の目標の共通理解を踏まえ、「めあて」と「まとめ」を生み出す学習指導に係る研修を実施し、日常化に努めた。</p> <p>● 各教科等ごとに積極的な生徒指導の機能を生かした指導方法ガイドブック（仮称）を作成し、管理職による教室訪問指導等の場での活用。</p>
21	市研究指定「研究発表の日」		<p>市の重点課題解決に向けて、「確かな学力」や「豊かな心」を育成する教科等の指導を中心に研究を進めてきた3つの小・中学校から次の研究主題で研究発表を行った。赤間小学校「特別な支援を要する子ども（LD, ADHD, 自閉的な傾向の子ども, 学力が遅れがちな子ども）を伸ばすための学習指導方法の研究」。地島小学校では、「本を読むことを楽しむ子どもの育成」。日の里中学校では、「学習意欲を高め、基礎・基本の定着を図る学習指導の研究」。また、今年度は、参観ガイド「むなかた学びの里」を作成・配布した。これらのことにより、研究実践に対する成果を共有することができたとともに、参加者の実践的指導力の改善の視点をもたせることができた。</p> <p>【次年度の改善点】</p> <p>次年度の研究発表の日に際しては、「協議会方式」を設け、授業の意味づけを行うよう検討する。</p>
22	特別支援教育推進事業		<p>○ 保幼・小・中・高の連携の必要性を協議により深めることができた。また、コーディネーターの取組を紹介することで、連携システム実現の方向性ができた。</p> <p>● 保幼・小・中・高の連携システムの確立</p>

	研修会名	対象	評価（○成果 ●課題）
23	学校給食における学校・家庭・地域の連携推進事業	全小中学校児童生徒	○「毎日食べよう朝ごはん」をテーマに各学校で「朝ごはんウイーク」等を実施し、朝食摂取に対する意識が児童生徒のみならず保護者も高まった。 ○「子どもの食を考える」研究発表会開催により、地域・家庭に子どもたちの健康な心と身体をつくることの大切さをアピールできた。 ●将来を踏まえ、平成19年度策定予定の「宗像市食育基本計画」に基づき、教育委員会と他課、学校、家庭、地域が連携し、子どもが修学してからではなく、もっと早い段階から食育の効果を享受できるようなシステムの充実を目指していく必要がある。

	とてもよい	ふつう	よくなか	計		
小学校	28	74	43	11	156	小学校 47%
中学校	20	42	27	2	91	中学校 47%
全職員	48	116	70	13	247	全職員 47%

	とてもよい	ふつう	よくなか	計	
小学校	18%	47%	28%	7%	100%
中学校	22%	46%	30%	2%	
合計	19%	47%	28%	5%	



331
195
526